

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700083		
法人名	医療法人財団 友朋会		
事業所名	グループホーム千寿荘		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919番地		
自己評価作成日	平成21年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年11月24日	外部評価確定日	平成22年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット／千寿荘	その人らしいあり方を尊重し生活支援を行う上で自己決定権を尊重した援助方法を大切にしている。その為に荘内は広くスペースを設けてゆっくりくつろげる生活空間を提供し、居室内には利用者の思い出が残られる様にスナップ写真を撮り、ファイルに閉じて掲示し、活動の中に本人の趣味、特技等を積極的に取り入れるようにしている。ご家族や知人との交流が図れるような場面や機会も作り、面会時には一緒にお茶を飲んだり希望があれば一緒に食事をして頂いている。更に専門の芸術療法士の指導による陶芸療法、絵画、クラフトの活動を取り入れ、利用者は生き活きた表情で製作に取り組むことができています。毎年、利用者のご家族とのふれあいが深まり良い思い出作りができる事を目的に利用者、ご家族、職員合同の日帰り旅行を計画し継続している。ボランティア活動の受け入れも行い、地域の方々と利用者とのふれあいを通じて感受性を豊かにして頂くようにしている。
ユニット／寿A	専門の芸術療法士が週1回から月1回のペースで絵画・陶芸療法を行い、生き活きた表情で作品作りに取り組まれている。職員の言葉かけや態度はゆっくりと、優しい雰囲気ですぐ笑顔での対応と利用者の自己決定権を促すような対応の仕方に心がけている。毎年利用者のご家族とのふれあいが深まり良い思い出作りが出来る事を目的に日帰り旅行を計画し、継続している。ご家族や知人等との交流が図れるような場面や機会を作っている。また、面会時には一緒にお茶を飲んだり、希望があれば一緒に食事をして頂いている。グループホーム千寿荘新聞「鶴亀たより」を家族へ発行し、利用者の生活が見えるようにしている。ボランティア活動の受け入れを行い、地域の方々と利用者とのふれあいを通じて感受性を豊かにして頂くようにしている。
ユニット／寿B	利用者が趣味や特技等を活動の中で積極的に取り組めるようにしている。また、専門の芸術療法士が週1回から月1回のペースで絵画・陶芸療法を行い、生き活きた表情で作品作りに取り組まれている。その人らしいあり方を尊重し生活支援を行う上で自己決定権を尊重した援助方法をとっている。毎年利用者のご家族とのふれあいが深まり良い思い出作りが出来る事を目的に日帰り旅行を計画し、継続している。ご家族や知人等との交流が図れるように、面会時には一緒にお茶を飲んだり、希望があれば一緒に食事をして頂いている。グループホーム千寿荘新聞「鶴亀たより」を家族へ発行し、利用者の生活が見えるようにしている。また、家族へのアンケート調査を実施し、家族の反応や要望にも配慮している。ボランティア活動の受け入れを行い、地域の方々と利用者とのふれあいを通じて感受性を豊かにして頂くようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると芸術療法士の指導により利用者が作成された花器、傘立て、絵皿等が飾られている。季節の花も利用者が日々交代で生けられている。廊下には季節の風物を貼り絵に掛けてある。リビングには囲炉裏もあり、一段と落ち着いた雰囲気をかもし出している。キッチンもオープンキッチンで利用者と共に毎日の食材の買い物に行き、会話、調理等を一緒に行い、嗅覚、視覚により一層食事を楽しむことが出来る支援がなされている。年間行事も、月1回のバスハイク、季節を感じ、なじみのある行事など様々な楽しみへの工夫がなされている。広い敷地内には他の関連施設もあり、日常の散歩など楽しむことが出来る。
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や基本方針を朝の朝礼時に唱和し、念頭に置き個別にあった関わりをしている。食材の買い物、調理、農園芸など日々その人ができることへの取り組みを実践している。			理念を基本とした利用者本位のケアの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の老人会、民生委員にメンバーとして入って頂き、荘内の行事のお知らせをして、ボランティア参加の呼びかけもしている。町の文化祭への出席・参加など行事へも参加している。嬉野市内のグループホームへ職員が出向き、踊りを披露するなど交流をしている。また、近隣の民生委員と連携を図り、嬉野町近隣の老人会、子供会の皆様と清掃活動を行っている。			地域の催し物等に利用者が作成された物を展示したりホームの行事等に地域の方々の参加もある。職員も地域、他のグループホーム等の行事に積極的に参加するなどして交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者に役立つ事は無いかと話し合った。併設医療機関の地域連携室主催で、認知症の方の初期対応をテーマに健康教室開催を11月19日に予定されている。現在健康教室の準備計画に協力し、参加を予定している。					
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況・行事の報告・行事の予定などを報告し、それに対する意見・提案などを伺っている。また、昼食を利用者の方達と共に一緒に頂く機会を作り、自然な生活ぶりを見て頂いている。会議での意見を活かした事例として、日帰り旅行でアルコール飲用を中止していたが利用者にはアルコールを出してよいのではと提案があり、敬老会、誕生会の時にはお酒をお祝いしている。また、ボランティア活動のPRを勧められ、地域の清掃活動に職員が参加できるようになった。今後は、利用者の参加を検討している。			ホームの玄関には運営推進会議の議事録も置かれており、家族等の面会時などに閲覧できるようになっている。また会議では運営面に関する提案も多く、これらの意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の介護相談員派遣事業を受け、利用者から意見などを聞いて頂き、気軽に話し合っておられる。嬉野市地域包括支援センターと市内のグループホーム3箇所で開催している。			介護相談員の訪問時に利用者との会話の中で出された意見要望などをケアサービスに繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本方針に身体拘束をしないことを明記し、毎朝業務開始前に声を出して意識づけを行っている。現在、身体拘束はゼロである。管理者は併設病院の身体拘束委員会に出席し職員へ伝達講習を行い理解を深めている。			日常的にホームの玄関は施錠はされていない。職員の見守りを中心とした支援がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	友朋会の高齢者虐待防止・対応マニュアルを参考に学習会を行っている。また、毎日入浴時、全身の皮膚や利用者様の表情などを観察しゆっくり話を聞く機会を設けている。家族にも困ったことはないかなど話しかけている。				
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設の人権擁護委員会に管理者が参加し事例を上げ、弁護士に意見を聞き話し合う機会がある。職員は成年後見制度についての研修を受けた。現在、成年後見制度を受けておられる方が1名おられるが事例を通し成年後見制度について関心が深まっている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時に説明を行っている。契約時には利用者・ご家族と十分に話し合える時間をとっている。千寿荘担当の精神保健福祉士に依頼することもある。安心して入居・退居できる状態にして契約している。また、介護保険改定時は利用説明書の改定を行い利用者・ご家族に説明を行い了解を得ている。				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し苦情相談の流れを掲示している。公衆電話の前には公的相談窓口のマニュアルも設置している。介護相談員の訪問を受け、利用者から話を聞いて頂いているが現在苦情に繋がることは発生していない。朝のミーティングで、職員や生活環境面について困った事はないかと利用者に問いかけている。行きたい場所などを尋ね実現できるようにしている。家族懇談会等のご家族の意見を敬老会等の行事などに反映させている。		意見箱も設置されているが、現在は苦情等の投稿はない。家族懇談会時に出た意見等はノートに記載され、家族の方も閲覧できるよう設置されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護者会議・看護師会議・千寿荘会議を月1回開催し運営に関する意見や提案を聞き、それぞれの議事録のコメント欄にコメントを記載し全職員に伝えるようにしている。代表者は定例の運営会議で管理者との意見交換を行う機会がある。また、事務長、看護部長、担当看護部副部長も巡回時に職員の意見を聞く機会を設けている。		運営に関する会議を月1回開催し職員からの意見、提案を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設施設全体の労働衛生安全委員会の「メンタルヘルスサポート体制」を示し、相談はいつでも行えるように掲示している。労働安全衛生委員会の職場巡視の際にも設備面や労働環境全般に対して要望を述べる機会がある。また、併設施設の看護部長が毎年6月に職場環境調査や職場ニーズ調査を行い、職員から直接意見を収集できる仕組みがある。運営会議の場や毎月の管理日誌、種々の理事長提出書類にてサービス提供状況・勤務状況を把握し、年度末人事考課システムや介護職事例発表集で職員個々の実績評価をしている。希望する職員に対して時間・費用など積極的に支援している				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの質の向上の為に認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、介護支援専門員研修、認知症対応型サービス事業管理者研修に該当者を参加させている。また、介護福祉士・介護支援専門員・認知症専門認定士の資格取得に向けての支援や院内外への研修会に参加できる様に職員の人員を確保している。荘内では看護、介護実践能力表に基づき基本的な知識・技術・態度が身についているかどうかを自己評価し、他者評価を行い段階的なレベルアップに努めている。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修、認知症介護リーダー研修の受入を行ない、研修の場を提供している。その時にお互いのサービス内容の情報交換を行い、ケアに活かせるものがないか検討を行っている。同業者への訪問やグループホーム連絡会議へ参加している。12月に千寿荘でグループホーム連絡会議を予定している。鹿島・藤津地域リハネットワーク研究会の研修会などに参加して、地域の同業者から情報を得たり、サービスの質の向上への取り組みを行っている。				
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度新しく入所された方は5名。家族と一緒に施設見学や活動を共にして頂くなど希望に応じて約1週間ぐらい日中の入所体験を実施している。その間に生活歴や困っていること、不安などを十分に聞く機会を作り、安心して入所できるように努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入荘希望があれば必ずご家族に荘内の見学をしてもらっている。その後入所予約表を提出してもらい、千寿荘のしおり・利用説明書を基に介護支援専門員・担当の精神保健福祉士・ユニット責任者と共に話し合いの場を設けている。困っている事、要望についても家族の体験や思いを理解しながら、その家族自身を受け止める様に努力している。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や利用者から相談を受けた時にグループホームの運営方針とニーズがマッチしているかを判断し、症状や介護度によって受けられるサービスも視野に入れ、ソーシャルワーカーやケアマネージャーと共にご家族の支援にあたっている。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中では、感謝、ほめる言葉、共感の言葉を多く使うようにしている。調理・農園芸など一緒に行いながら利用者から教えてもらったり、料理では特に食材の買い物から味付けまで共に行い職員も同じ物を食べお互いに評価をしながら楽しく頂いている				
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月郵送している健康管理と共に行事の案内を行い、参加を呼びかけている。参加されたご家族は、和気藹々とした雰囲気の中で、利用者・職員と一緒にゲームなどを楽しんで頂いている。定期的に荘内の行事や利用者の様子が分かるような鶴亀新聞を発行し、ご家族へ郵送している。今年度の敬老会では本人・家族の共同作業で自分の手形取りを行い、和やかな雰囲気でも過ごされた。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の病院受診を希望される方へは家族に協力してもらい付き添いをお願いしている。家族の都合で面会は準夜帯でも、朝早く来られても快く受け入れている。			馴染みの理容室、友達との面会等の柔軟な支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を考慮し、利用者間の関係が良好に保てるようにテーブルの席や入浴の順番にも配慮している。一人で歩けない利用者の下膳をして頂いたり、入浴時お互いに背中を流し合ったりして助け合い、支え合いの光景が見られる。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退荘された後、手紙のやり取りをしたり、病院受診時にグループホームに立ち寄り頂くように声かけしている。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1~2名に対し職員1名の担当制もとり入れ、利用者の思いや希望など意向の把握に努めている。料理が好きな方には調理をするときに牛蒡そぎをしたり、出来た料理をつぎ分けたりされている。利用者の意向に沿って援助を検討している			食材の買出し、料理の手伝いなど利用者の希望に応じた役割があり、利用者の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より生活史として情報収集し得たことを介護計画に活かし援助している。家族の面会時などに意見を聞き、日々の関わりの中に反映させている。例えば、利用者の方には書道をされる方がおられ、毎日の食事のメニュー書きや毎月の歌を応用紙に書いて頂いている。利用者の自宅の家紋を入荘時に聞いて作成し、自室の入り口に掲示している。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	援助項目に沿って日々の記録を利用者の様子や援助内容がわかるように記録し、情報として伝達している。サービス計画書の6か月毎の評価、3ヶ月毎のモニタリング、サービス担当者会議の場でも多角的に把握・評価できるようにしている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状況、生活歴や個性につながる情報を収集している。また、利用者及び家族のサービスに関する要望も聞いている。サービス担当者会議には利用者、ご家族、担当医、計画作成担当者などの出席を得てニーズや課題、援助内容を検討している。担当医が参加することで、ご家族は医療面その他についても気軽に相談できるようになった。			入居時に利用者の生活歴や思いなど情報を収集したり、家族の面会時などに家族の意見、希望なども聞き計画に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書に沿ったケアの内容を共有しながら実践している。実践した内容は記録に残し、介護計画の見直しに活かしている。援助記録用紙の内容について見直し、記録マニュアルも作成した				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの行事に、民生委員やボランティアの方に参加して頂いたり、グループホームの職員が地域に出向き行事に参加したり交流を図っている。朝の集いの場面や、個々の担当で行きたいところの引き出しを積極的に行っている。毎日の食材の買い物、散歩、外食、地域の行事への参加、旅行など積極的に出かけている。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	千寿荘独自の防災訓練には、嬉野市の消防団員が見学に来られた。千寿荘職員・利用者の訓練状況を見てもらい感想を述べて頂いた。その感想を次年度の取り組みに活かし安全な暮らしができる様に配慮している。また、市報「うれしの」、県民だよりが毎月届きそれを活用し地域の行事への参加に活かしている。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診が必要となった場合は、協力医療機関である嬉野温泉病院と連携を図り受診している。本人家族の希望や必要時はご家族の協力を得て希望される医療機関へ受診してもらっている。			かかりつけ医を望まれる場合には希望に添った支援を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット1名以上の看護師を配置すると共に、事業所の介護配置に対し医療的側面からの指導援助を行っている。日常的な健康管理を行い身体的、精神的状況の把握に努めている。嬉野温泉病院に定期的な外来受診や往診を受け外来看護師との連携も図っている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	併設施設に利用者が入院された場合は職員が面会に行き、病棟スタッフとの情報交換を行い、回復状況を見て退院日の調整を行っている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症対応型共同生活介護利用説明書に重度化した場合の対応について明記し、入所時に利用者・家族に説明し、ご意見を聞きながら方針を共有している。急変時対応希望書に心停止や呼吸停止、外傷などによりご本人との意思疎通が取れなくなった時やご家族とすぐ連絡がつかない場合の対応について具体的な項目を選択して頂き、サインを得ている。ご家族の要望を取り入れるため併設施設や地域の医療機関との連携を図っている。			入所時に重度化や終末期におけるケアについて家族の方の意見要望を聞き対応されている。殆どの場合が併設施設や地域での治療を望まれており、これまでにホームでの終末期のケアの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置用物品の整備と使用法の研修を行い、応急手当のマニュアルや併設病院への緊急連絡網を明示し活用できるようにしている。応急手当マニュアルに沿って全員が応急処置ができる。AEDや吸引器の取り扱いについては職員全員が併設病院の研修を受け使用できる。4名の職員が一次救命処置の資格を習得した。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の火災・災害訓練に参加し、避難における知識、技術を学んでいる。また、ホーム独自でも定期的に通報・連絡訓練、避難誘導訓練を昼夜それぞれ設定し行っている。その際、近隣の地域の消防団員に依頼し、協力を得た。地域との連携については併設病院の協力のほか、法人全体の火災・災害訓練に嬉野医療センターも参加され共に協力体制ができています。			ホーム独自の夜間帯を想定した訓練が実施されている。消防隊の方などにアドバイスを受け、地域との連携も出来ている。法人全体での訓練も実施されており、災害時の連絡網等も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの方針に「人権擁護」を掲げ、利用者の人権を尊重するような関わりを行っている。居室への入室時にはノックと挨拶をしている。利用者の呼び方は、姓名での呼称を重視し実行している。法人の個人情報保護方針に則り、プライバシー保護を厳守している。			日々の介護の場面では大声で呼びかけるのではなく優しく小声にて呼びかけており、排泄誘導等においても他の利用者に気づかれないよう誘導している。個人の記録等も利用者の目に付かないよう保管されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の過ごし方は、自主性に任せ自己決定できる場面作りをしている。例えば、睡眠に問題が無い方であれば午睡をして頂き、居室内でゆっくりテレビを見たい方には自由にして頂いている。ホールの方では芸術療法をしている事も説明し、それぞれが過ごし方を自己決定して療法に参加されるのを待つ姿勢を取っている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせてゆっくりとした時間が流れるように1日の生活の流れを配慮している。週間サービス予定表、日課表は個別に作成しているが、その日の状況で希望を聞きながら過ごして頂くようにしている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好むおしゃれを支援している。朝はポイントメイク、外出時は簡単なメイク、入浴後は化粧水をつけるように利用者に応じて支援している。入所前からの行きつけの理美容院へ行けるように職員が同行したり、家族の面会時に依頼している。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日は赤飯を炊き、季節の山菜、旬の食材を使い、誕生日には利用者の好物を献立に取り入れている。食材の買い物、調理、味付け、後片付けなど利用者と一緒にしている。利用者様の好みを聴き6種類のパンを選択し木曜、日曜日の朝食に提供している。			季節の食材を利用者と一緒に買出しに行ったり、利用者の誕生月には希望の材料を取り入れた料理を作っている。料理のつぎわけや料理の下ごしらえなども利用者と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の入居者様の好みや嫌いな物又、アレルギーの食材を職員は把握している。キザミ食が良い方、主食の二炊きが良い方の伝達を職員間でおこなって対応している。また、年2回の定期健診の結果から栄養アセスメントも行っている。食事メニューについては、管理栄養士の指導を受け作成している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事時、入れ歯の噛み合わせがスムーズに行えているか、摂取状態や摂取量を見ている。毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科受診を行なう支援をしている。又、歯ブラシ、コップの清潔にも気を配り定期的に洗っている。今年度からは「健口体操」として嚥下力や口の周りの筋力アップを図れる運動も取り入れて毎日行っている。					

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所後3日間は排泄管理表のチェックを実施し、個別の排尿パターンを把握している。排尿誘導はさりげなく早めに声かけ、失敗回数を減らすように支援している。行動の観察を行うと共にその人に合った時間に誘導している。			細かな排泄誘導、排泄時のサイン等を見逃さないよう観察、チェックを行い排泄の自立に向けての援助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール不良の利用者には、排便の有無が確認できるような一覧表を作成している。その事で全スタッフが把握できるようにして対応が出来る。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日15時頃より入浴を行っているが入浴の方法や時間帯など、個人のペースで入浴できるように心掛けている。毎週土、日は利用者の希望される時間に入浴できるように支援している。また、「毎日入浴したくない。週に3回でよい。」と言われる方にはその方の希望を取り入れている。			毎日15時以降の入浴を実施している。毎日の入浴を希望されない利用者は希望に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活の流れを守りつつ、年齢、身体の状態等に合わせて午睡や休息も取り入れるようにしている。一人ひとりの休息のケアに配慮している。必要に応じて入眠されるまで側に寄り扱い、添い寝をする等して安心して入眠できるようなケアを行なっている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から薬の名前、作用、副作用などの説明書をもらい、カルテに綴じて何時でも見れるようにしている。処方変更があった場合は、その都度差し替えスタッフへ知らせている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら、女性は家庭で行われていた家事、特に食事の準備で食材の買い物や下ごしらえに関わってもらっている。また、洗濯物干しや取り込み、たたみや利用者ごとの振り分けまでされている。男性では詩吟の練習、日頃の活動や行事での披露もされている。利用者自身から何でもしたいと要望があれば出来る事、出来ない事を見極めて職員と一緒にしたり、見守りながら行なわれ、それぞれ役割意識が高まり喜びにも繋がっている。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/千寿荘)	自己評価(ユニット名/寿A)	自己評価(ユニット名/寿B)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等、条件が揃えば屋外散歩やディホールでの活動を行っている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。また、毎日の食材の買い物と一緒に出かけ、地域と触れ合う機会を支援している。個別的に車でドライブへ出かけ落ち葉広いをしたり、散歩時風を肌で感じるなど季節感を味わってもらうようにしている。			利用者本人の希望を取り入れ天気の良い日の散歩、食材の買出し等は日常的に行なわれている。希望があればドライブに行ったり、季節を肌で感じる事が出来るような取り組みもなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中で金銭の所持を希望される方、ご家族の理解や協力が得られる方は金額を考慮した上で所持されている。地域や近くの売店に買い物に行かれた時に欲しい物を購入する際、直接お金を支払ってもらいお金に触れる機会を作っている。お金を所持される方も少しずつ増え、現在27名中約半数が所持されている。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に設置してある公衆電話を使用したり、ご家族に取り次ぐなどの支援を行っている。活動で作成したはがきを利用して全利用者様が暑中見舞いを出す事ができた。年間行事がある時、家族より贈り物が届くとその都度お礼の葉書きを出してご家族からの返事もあった。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建て、ホールの天井は吹き抜けで昔風の建物である。また、ホールには囲炉裏があり、利用者の手作りの作品などを飾っている。台所には調味料類や食器など利用者の手の届く場所に置き、またドアは障子風のデザインとし家庭の雰囲気を感じることができるよう工夫している。			玄関には利用者によって作成された陶芸作品や花が飾られている。リビングは天井も高く、広々として、囲炉裏も設置され、暖かみのある雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには植木や金魚水槽、本棚等を置いてある事で個々の入居者がそれぞれに楽しんでいる。植物が好きな方は家族様が持ってこられ居室に置き楽しまれ日光に当てたり水遣りを日課にされている。一人掛けソファを置いたり、居場所作りを意識した環境的配慮を心掛けている。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の希望で使い慣れた布団、ソファを持ち込まれている方もおられる。また、仏壇を設置し毎日拝んだり、個人のTV・趣味や好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。			居室には個人の使い慣れた物が持ち込まれており、居心地のよい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用している。老人カール使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。食堂など共用の場所に近いところを介助歩行や見守りが必要な利用者の居室とし、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。				

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果			
		↓該当するものに○印をつけてください			
		千寿荘	寿A	寿B	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
					2. 利用者の2/3くらいの
					3. 利用者の1/3くらいの
					4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	○	1. 毎日ある
					2. 数日に1回程度ある
					3. たまにある
					4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果			
		千寿荘	寿A	寿B	↓該当するものに○印をつけてください
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	○	1. ほぼ全ての家族と
					2. 家族の2/3くらいと
					3. 家族の1/3くらいと
					4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)				1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある
		○	○	○	3. たまに
					4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	○	1. 大いに増えている
					2. 少しずつ増えている
					3. あまり増えていない
					4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	○	1. ほぼ全ての職員が
					2. 職員の2/3くらいが
					3. 職員の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 家族等の2/3くらいが
					3. 家族等の1/3くらいが
					4. ほとんどいない